



NO.
86
2012
NOVEMBER
www.takatsuki.jrc.or.jp

緩和ケア病棟は 10周年を迎えました



高槻赤十字病院緩和ケア病棟 10周年記念



緩和ケア病棟設立の理念

治癒を目指した治療が困難な状態にある患者様と、
そのご家族に対して、適切な医療と快適な環境を提供します。
身体的な苦痛だけでなく、孤独、不安など精神的苦痛を軽減します。
患者様が最期まで、その人らしく尊厳をもって、安心と納得のなかで
自分の人生を肯定して有意義に過ごすことができるように援助します。

緩和ケア病棟10周年を迎えて

高槻赤十字病院 院長 田嶋 政郎



緩和ケア病棟(レイクサイドホーム)は本年5月に10周年を迎えました。緩和ケア病棟は人見滋樹前院長、故岡田圭司前緩和ケア科部長の緩和ケア医療への情熱とリーダーシップのもと平成14年5月に開設されました。尾広池に面し緑に囲まれた環境の中に位置する独立した建物として、その年に第一回癒しと安らぎの環境賞ホスピスの部で最優秀賞をいただきました。それ以来、国内国外から多くの見学者、研修者を受け入れ、緩和ケア病棟は、高槻赤十字病院のシンボリック的存在となりました。

しかし真に誇れるものは、建物、環境ではなくこの間に培われた当院における緩和医療そのものであり、理念の下、大事な人を失う悲しみを迎えなければならない家族を思いやり、支え、その悲しみやつらさを共有し共に乗り越えて行こうとする姿勢であると思います。

当院の緩和医療が10周年を迎えられたのは、お二人の先生方に加え、木元道雄緩和ケア科部長をはじめ看護スタッフの赤十字精神を基礎とする緩和ケアへの熱い思いとその実践へのたゆまぬ努力のたまものであると思います。さらに創立時からの病棟の行事、運営、療養環境を支えてこられたボランティアの方々の絶大な支援です。皆様の努力に心から敬意を表したいと思います。また8月から緩和ケアチームに京大から岸本寛史緩和ケア診療科部長を迎え、急性期病棟における緩和ケア医療もさらに充実することができました。当院の素晴らしい緩和ケアをより多くの患者さんに、長く待つことなく受けて頂く体制が整いました。これからも地域の皆様のご期待に添えるように努力していく所存です。皆様のご支援ご協力を今度ともよろしく願いたします。

緩和ケア病棟開設10周年を記念して

看護部長 高井 万紀子



緩和ケア病棟の理念は、「患者様が最後まで、その人らしく尊厳を持って、安心と納得の中で自分の人生を肯定して有意義に過ごすことができるよう援助します。」です。理念を実現するために、平成14年の開設から今日まで、勤務するメンバーは、すっかり変わっていますが、患者様とご家族に対する看護は変わらず実践しております。

当病棟を利用して頂いた方々からの多くの学びを得て、情報発信や家族会なども開催しています。また病棟では、ボランティアの方々の活動にも支えられています。季節折々の「おもてなしの心」配りによって、患者様とご家族だけでなく、スタッフまでもが「癒しとやすらぎ」をいただいています。

この施設は「癒しと安らぎの環境賞」ホスピス部門の最優秀賞が授与された実績、また病院敷地内独立型の緩和ケア病棟であるという、他施設のホスピス病棟との違いから、開設以来多くの方々が見学に来られています。そして来られた皆様から、良い評価を頂いております。

緩和ケア病棟を開設するために尽力された人見滋樹前院長、緩和ケア病棟専任医師であった故岡田圭司先生、若林ナナミ元看護部長、門田裕子元看護部長、宮崎妙子前看護部長など、現在の当院を方向付ける大きな決断をされた先駆者の意思を継いで、今後も「ここに来て良かった」と実感して頂ける高槻赤十字病院の看護を提供できるよう職員一同努力する所存です。

開設10周年に寄せて

緩和ケア科部長 木元 道雄



人見前院長、故岡田部長のご尽力で、高槻赤十字病院緩和ケア病棟が池のほとりに開設されてから今年5月で10年の節目を迎えました。これまでに延べ1500人近くの患者さんのお世話をすることが出来ました。一方で、これまで病棟担当医の不足から、外来、入院とも長くお待たせをしたり、お役に立てなかったりして本当に申し訳なく思うことも多々ありました。しかし、今年4月から病棟に2名、緩和サポートチームに2名の専従専任医師4人の態勢で診療に当たることになりました。それぞれの医師は外科、心療内科、麻酔科、呼吸器内科出身で専門知識を生かしたチーム医療・ケアを提供できると思います。今後は地域の先生方と連携して在宅ホスピスケアのバックアップに力を入れて行きたいと考えています。緩和ケアの本質である「もてなしの心」「一人一人を大切に思う気持ち」を忘れないように、一人でも多くの地域の患者さんやご家族に適切な緩和ケアを提供していきたいと思っています。

高槻赤十字病院前院長 京都大学名誉教授 人見 滋樹



10周年おめでとうございます

高槻赤十字病院の緩和ケア病棟が創立10周年を迎えられましたこと、前院長として心からお祝い申し上げ、お世話になりました多くの方々に厚く御礼を申し上げます。

院長に着任して最初に職員の皆さんに提案したのが、緩和ケア病棟の創立でした。全員のご賛同が得られ、早速、準備委員会を立ち上げ、勉強会も始めました。当時、国立姫路病院呼吸器外科に勤務して居られた岡田圭司先生と一緒にやろうと声を掛け、意気投合し、転勤して来て戴きました。半年後には、基本理念(前述)やハード面の設計図も完成し、本社の承認も得られ、日本財団にも援助を申請し、1億円の寄付金を戴くことが出来ました。2年後の2002年4月にオープンの準備が完了しました時に、岡田先生が進行性大腸癌と診断され、手術を受けられた為に、オープンは急遽2ヶ月延期されました。

5月の開式式典には、日野原重明先生のご祝辞と柏木哲夫先生の「緩和医療にはユーモアが必要」との記念講演を戴くことが出来ました。

設立準備委員で練り上げた理念は、緩和ケア病棟玄関に掲げられています。その理念は10年を経て、不変であり、今後とも心に刻んで生きて行きたいと存じます。患者さん達、ご家族の皆様、ボランティアの方達、全職員、ご関係の皆様にお礼を申し上げて、祝辞と致します。

星ヶ丘厚生年金病院 医師 塚原 悦子



まずは、病棟十周年本当におめでとうございます。

緩和ケア医としての私の始まりは、2003年10月より1年間を病棟常勤医として、またその後数年を非常勤医師として勤務させて頂いた高槻赤十字病院にあります。その頃受け持った患者さんの覚書を読み返すと、日々の情景や葛藤が昨日の事のように浮かびます。その後も同じ緩和ケアの現場で遅々とした歩みを続けてこられたのは、高槻日赤で最初に質の高い緩和ケアに触れさせて頂いたからだなあ、と今にしてしみじみ感じるのは、巣立った子の心境でしょうか。

「緩和ケアは運動や制度ではない、働きである。」これまで出会った大切な言葉の一つです。高槻日赤緩和ケア病棟のこの十年は、岡田先生、木元先生をはじめ、関わられた全てのスタッフの皆さんが、患者さんの命と向き合い、支えながら一つ一つ積み上げてこられた、「働き」の歴史だと感じます。病棟中に温かい雰囲気があふれているのは、その積み重ねがあるからこそ、お邪魔するたびに心を打たれます。

たくさんのことを教えて頂いたこの素晴らしい場所が、今後も多くの患者さんやご家族の癒しの場であると同時に、地域の緩和ケアへの発信基地であり続けますよう心より願い、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 副看護部長 鎗野 りか



緩和ケア病棟開設10周年おめでとうございます。

私が病棟に携わらせて頂いた約4年間の看護を振り返ると、患者・家族がそれぞれの思いをできるだけ自由に意思決定できる環境を提供できる病棟になりたいと、岡田先生と話し合い、それを一生懸命スタッフと実践していたのだと感じております。この実践の積み重ねの中で私自身の緩和ケアへの価値観は構築され、今に至るまで貴院で気づいた思いを大事にしながら緩和ケアに取り組んでおります。社会の中で緩和ケアの本質的理解が徐々に変化している現在、緩和ケア病棟が果たす役割は更に大きくなり、それに携わるスタッフの皆様の気苦労は決して小さいものではないと思います。しかし、高槻日赤病院緩和ケア病棟が今まで地道かつ真摯に社会に発信してきたケアの思想や成果は、多くの信頼を得ているのだと、他施設にいるからこそ実感し、そこで働いていたというキャリアを誇らしくもあります。

この10周年は、未来に向けた優しいケアを提言し続ける基盤になっているのだと思います。これからも今まで以上に緩和ケアのあるべき姿を実践をもって、社会全体に発信されることを勝手ながら期待しております。

いきいきチームスタッフメッセージ



何もできないことも
知りながら
患者の傍に居続けること
が terminal care の
真髄

▲故 岡田圭司先生の言葉

6 病棟師長 岸 恵美

緩和ケア病棟で師長の任にあたった5年の間には様々の事がありました。故岡田先生からは緩和ケアの真髄を教えて頂いた気がします。そして何より看護を通じて、患者様を思うご家族の強い思いを感じる事が出来ました。医療者とご家族そして緩和ケア病棟という環境がそろって温かいケアを提供することが出来たのではないかと思います。これから人々の心に残る看護を継続して頂ければと思います。



栄養課 島村 雅代

季節感を大事にした献立を心がけ、チームとして調理師を中心とした嗜好調査を行い、患者様の希望に沿った食事の提供に努めています。患者様が笑顔になるような食事をめざしこれからも取り組んでいきたいと思っています。

看護師 佐々本 直美

素敵な出会いをたくさんさせて頂きました。これからも、どんな出会いがあるかとワクワクです。心をこめてケアさせて頂くことに感謝します。



看護師 堀 華乃子

緩和ケア病棟で働いて大切にしている事は今、ここで、この人だから、という事です。1人の人として向き合い、真摯に関わる姿勢を忘れずに励んでいきたいです。そして、この緩和ケア病棟でであった全ての人に感謝しています。

看護師 勇 祐子

高槻赤十字病院緩和ケア病棟がこれからも燈台のようにまわりをあたたく照らしていけるように共に歩んでいきたいと思っています。頑張らない。でも、あきらめない。



看護師 藤原 和子

多くの人と出会い、「今、ここで」「一人の人として尊重する」ケアについて教えていただいています。日々のお出会いは偶然ではなく必然だと感じています。地域の方々に身近に感じて頂ける緩和ケア病棟を目指して成長を続けたいと思っています。

医師 金村 誠哲

これからも患者さん、ご家族の心に届くケアを行っていききたいと思います。



看護師 木野 洋子

緩和ケア病棟に勤務して10年。多くの人の、深いところの気持ちに触れる中で、人の話を良く聞き、考えるという、いつからか自分自身に変化を感じるようになりました。最期の大切な時間を、共に過ごすことができたことは、私にとって宝物です。大好きな、この病棟で長い間、勤務できた事に感謝です。

理学療法士 永本 和弘

緩和ケアのリハビリに関わらせていただき、早10年。楽しい日もあり、足が重たい日もあり、感動をいただいた日もありました。これからも緩和ケアチームの一員として精一杯患者様と共に歩んでいきたいと思っています。



看護師長 西 ひろみ

平成23年から緩和ケア病棟の師長の任に就かせて頂いています。まだ、一年半ですが、共に笑い共に涙し、そんな関わりの中、一生懸命生き抜いた患者さんや支えるご家族から多くの感動をもらい、様々なことを教えていただきました。「ここへきて良かった」と思ってもらえるように、スタッフ一同努力してまいりたいと思います。



薬剤師 美和 孝之

薬剤師の緩和ケア病棟への対応が遅れてますが、緩和ケア病棟の皆様と共に研鑽し、患者様やご家族の方のケアのサポートができる日を目指して頑張ります！

塩梅なにわチーフ 斉藤 安夫

私達、なにわスタッフ一同より良い食事をモットーに励みますので宜しくお願いします

医療安全課長 酒井 美幸

私は病棟準備期から開設3年間のお付き合いでしたが多くの学びを得ることができ大変感謝しています。当時はまだ、緩和ケアは特別のこのように扱われていましたが、今では院内外、地域へとその存在が浸透してきたのではないのでしょうか。“その人らしさ”を支え、症状や病状に応じた“やさしいケア”がこれからも継続されることを祈ります。

看護助手 羽瀬 麻紀

たくさんのお会いと別れがありました。でも、その中で、支えねばならない立場でありながら、出会ったいろんな方々に支えられてそして日々感謝しています。これからも患者様、家族様が良い時間を過ごして頂けるようお手伝いさせて頂きたいと思っています。

医師 岸本 寛史

高槻赤十字病院緩和ケア病棟開設10周年という節目の年に着任しました。言葉にならない思いにも目を配りながら頑張りたいと思っています。

看護師 今村 愛子

患者様、家族様と人生の最期の大切な時間を共に過ごす中で大切な事を沢山学ばせて頂いています。これからも、微力ですが患者、ご家族様の力になれるように頑張っていきたいと思えます

看護係長 斉藤 三七子

ここで学んだことは、最期まで「生き抜くことの大切さ」です。患者さんやご家族からたくさんの事を学ばせて頂き、出会ったことの縁に感謝しながら、緩和ケアに携わっていきたいと思えます。



医師 米本 千春

LAKE SIDE HOME10年の歴史を、その重みを感じながら日々勤務させていただいています。ボランティアの方々を含めたスタッフの皆様のお陰と思えます。患者様とご家族の笑顔に力をもらい、様々な経験をさせていただいています。自分も力を与えられる存在になりたいと思えます。



ボランティア代表 吉峯 理恵子

「環境整備第一とおもてなしの心」をモットーにこれまで活動してまいりました。

*その時、その時の出会いに心をこめて活動しています。*毎月の行事やお花などで季節を感じていただいています。*楽しい行事でそのひと時、病気のことを忘れていただけたらと思っています。*人のための活動が自分の心と体のためだったと感じています。設立10周年を迎え、緩和ケアの精神と活動が新しいボランティアにも引き継がれて、さらに発展していくことを願っています。



アロマセラピーボランティア代表 ギル 佳津江

9年前から病棟で週一回のアロママッサージをさせていただいています。これからも優しいタッチとこころ良い香りで患者様とご家族の皆様喜んでいただけるよう、一層みんなで頑張っていこうと思います。



看護師 亀井 由美

患者さんのそばにしようと始めた緩和ケア。今、10年前とは違う難しさと喜びも感じています。どんな時も患者様ご家族、そしてスタッフに支えられ、許されてなんとか今日までなんとかやってきました。これからも感謝を胸に看護していきたいと思えます。



遺族会「ふたばの会」

ふたばの会の目的

- ① 緩和ケア病棟の役割であり遺族会を体系的に行う。
- ② 遺族の悲嘆作業の過程を知り、継続的な家族・遺族ケアに繋げる。



名前の由来

「愛する人の悲しみ」という同じ体験をした人々と、様々な形で支えあうことにより「生きていく喜び」という新しい希望を大切に育んでいきたい、という意味をこめて『ふたばの会』とした。

開催実績：年2回、5月と11月に開催
計21回開催
平均参加人数(16.3家族/回)

母が最期、幸せだった理由

わけ
榮 真理子 さま



ここに入院後1カ月の母の写真。なんて穏やかな!痛みがコントロールされているのだ。薬は入院前と同じものだったが、独居では母本人も私も思い切って使えなかった。でも痛みの緩和だけがその面持ちの理由ではなかった。

ターミナルケア。私は学生時代、見学を通して学ぶ機会があった。それから20余年、母が癌を患らい、急に弱り始めた今年の初め「最期は母をホスピスに…借金してでも!」と願った。紹介された高槻日赤緩和ケア病棟には無料の個室があり、娘に負担をかけさせない事に、自立した母の満足があった。確かに経済的理由は母を平安にしたことだろう。

でもこの病棟流の「看護」のあり方が母の価値観に合ったこと、さらに何よりも仕事を愛しガンバっているスタッフのみなさんの姿が、シングルマザーを貫いた仕事人の母を24時間励ましていた。『神のなさる事は全て時にかなって美しい。(聖書)』当初の余命を二倍生きてその日、母らしく天に凱旋していった。

Cafe しらかばの思い出

松原 宏 さま

私の妻・薫がこちらにお世話になったのは昨年11月から今年3月に亡くなるまでの4カ月間でしたが、私も妻に付き添って一緒に過ごさせていただきました。ここに来て驚いたのは最期が近い患者さんが入っておられるのに雰囲気がとても明るいことでした。部屋にいても看護師さんの達の朗らかな声が聞こえ病室にいるような気がしません。部屋でコーヒーを淹れている時に看護師さんが入ってこれ、「まー良い香り、喫茶店みたい」とおっしゃったのでつい調子に乗って部屋名の「しらかば」に因み「Cafeしらかば」に、いらしてくださいとお誘いすると、みなさんが気軽に応じてくださり私たち2人の思い出の写真なども見てもらいながら一緒にティータイムを楽しむことができました。薫と過ごした最後の場所がこちらの緩和ケアでしたが、多くの皆さんに支えられ心穏やかに薫の最期を看取ることができたのは幸せでした。



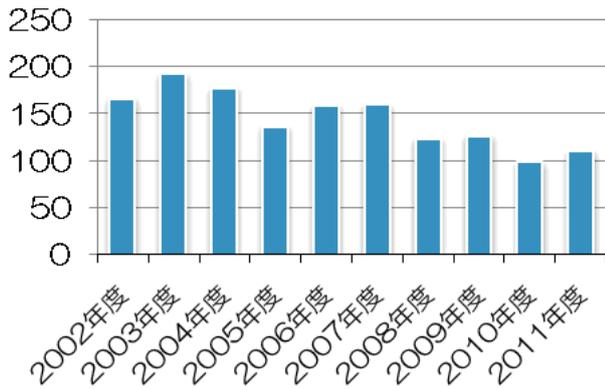
▲ Cafe しらかば

緩和ケア病棟10年の歩み

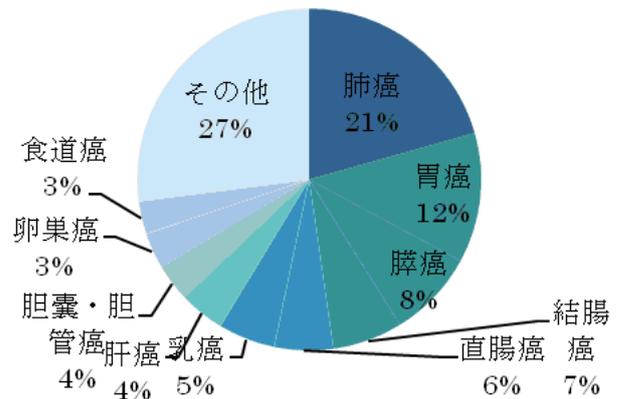
緩和ケア病棟の概要

	延人数	退院率	死亡 退院数	平均 年齢	在院日数 (中央値/平均値)	待機日数 (中央値)	院内患者 の割合
2002.5~ 2012.4	1472人	10.0%	1320人	68.0才	23日/39.7日	23日	28.7%

年度別患者数



部位別患者数 (2002 ~ 2011)



かけがえのない日々



癒し、癒され



人間お雛様



夏の思い出



サンタ登場!



星に願いを...



金環日食
観察中



お月見

就任の挨拶

緩和ケア診療科部長 岸本 寛史



平成24年8月1日付で当院に緩和ケア診療科が新設され、その部長を拝命しました。緩和ケア診療科では、緩和サポートチームとしてがん治療で通院中もしくは一般病棟入院中の患者さんの症状緩和のサポートをさせていただきます。

最近では、がんやその治療に伴って現れる痛みや不安などの様々な症状を軽くする様々な工夫が出

来るようになりました。症状を軽くすることで質の高い生活を送ることも可能となります。どうぞつらい症状を我慢せず、お気軽に相談して下さい。主治医やその他の病棟スタッフと密に連携を取りながら診療を行います。主治医の依頼を受けて介入を開始しますので、まずは主治医の先生にご相談下さい。

診療科 トピックス

緩和ケア
診療科

緩和ケア最前線

「緩和」と聞くと、末期をイメージさせるかもしれませんが、そういう考え方は今では少々古い考え方になっています。痛みや吐き気、息苦しさなどの症状が出るのは末期とは限りません。がんの治療を受けながら、様々な症状も同時に治療していくという考え方に変わってきています。ツライ症状を和らげるお手伝いをさせていただきますのでどうぞご相談下さい。

緩和サポートチームには 次のようなメンバーがいます。

医師・緩和ケア認定看護師・
がん専門薬剤師など

次のような症状の緩和を 工夫していきます。

痛み、吐き気、息苦しさ、しびれ、手足のむくみ、
だるさ、不安、気持ちの辛さ、気持ちの落ち込み

当院の特色

がん患者さんの様々な症状緩和の相談をお受けします。
患者さんとそのご家族の話をよく伺い、それを中心に据えた診療を行います。
主治医や看護師、病棟スタッフと連携を密にしながら関わります。
緩和サポートチームは、厚生労働省の定める緩和ケアチームの要件を満たしています。

「がん患者サロン」のお知らせ

がん相談支援センター 藤原 和子（緩和ケア認定看護師）

高槻赤十字病院では、がんとどのように向き合って生活するのか、がん患者さんやご家族が思いを語り交流する場として、がん患者サロンと乳がん患者サロンを開催しています。

『がん患者サロン』は、がんの種類に関係なく利用でき、毎月第3水曜日の11時～16時に2階のがん相談支援センターで開催しています。

『乳がん患者サロン』は年に1、2回開催しており、H22・23年度はリンパ浮腫の予防とケアについての勉強会を行い、H24年度は乳房切除後の下着について体験談を伺いました。後日、患者さんの発案による、手作りパットの作り方や工夫などの講習会を行いました。

どちらも発展途上で至らない点も多いのですが、患者さんやご家族が支えあえるサロンを目指しています。お気軽にお越し下さい。

認定看護師紹介

救急看護認定看護師

矢田 雅美



当院の救急室で診察する患者さんは、救急車搬入だけではなく、外来や検査中の急変や、地域医療連携室からの紹介、訪問看護を受けている患者さんを受け入れています。診療している疾患の幅は広く、軽症から重症患者までさまざまです。また、緊急手術・緊急心臓カテテル検査・緊急内視鏡検査も行っています。

私は、現在師長として、救急室看護師と一緒に勤務を行っています。救急室に配属された看護師の救急看護レベルアップ（迅速な救急処置や検査、家族の精神面にも配慮した対応が出来るよう）を担っている他、来院された患者さんの診療がスムーズに行えるよう、救急診療システムの

問題を救急部長と検討し問題解決にも当たっています。当院では、2012年6月から院内トリアージを開始しました。トリアージとは患者さんの緊急度や重症度を診た上で、診療の優先順位の判断を行うことを言います。歩いてこられた患者さんの緊急度・重症度を速やかに判断し、医師と伴に迅速に治療を開始しています。

また診察までの間、待合室での急変がないよう、患者さんの安全対策にも努めています。今後は更なる救急室看護師の質と私自身のレベルアップを行いながら、現在の状況に甘んじず、当院の救急医療の発展に貢献するため粘り強く、最後まで諦めず頑張っていきたいと思えます。

一日看護師体験



今年度も大阪府下の高校生を対象とした一日看護師体験が、大阪府健康医療部保健医療室の受託事業として催され、当院では8月7日・8日の両日受け入れをいたしました。大阪府立芥川高等学校と追手門学院高等学校から計19名が参加され、白衣を着用し看護師について患者さまのお世話をいたしました。看護師を目指し進路の最終決定の時期の生徒さんもおられ、決意を新たにできる機会となったようです。

ここに感想文の一部を掲載させていただきます。

今日は一日看護師体験をさせていただき、ありがとうございました。

僕は、中学生の時から医療・福祉関係の仕事に興味があったのですが、実際はその関係の仕事に従事している方々の具体的な仕事内容は分かっていませんでした。ですが、今回看護師の方々のお仕事を間近で見学、体験させてもらったことを通して学ぶことが数多くありました。人の命に関わる現場のため、緊張感の漂うピリピリした空気なのかと思っていましたが、看護師の方々は忙しい中でも笑顔で患者さんに接し、まだ高校生の僕にも丁寧に教えて下さいました。また、患者さんと看護師の方々が話している姿などを見て、責任があるとともに信頼される職業なのだ改めて気づくことができました。

僕はまだ高校二年生で進路も決まっていませんが、今回の体験学習を通じて看護師という職業をより身近に感じるようになったと思います。患者さんに「ありがとう」と言ってもらえた時の喜びを忘れないように残りの学校生活を送りたいと思います。ありがとうございました。

看護師さん同士が患者さんの体調や様子を細かく情報交換している姿が凄く印象的でした。患者さんへの処置が終わった後、患者さんにはもちろんそのご家族の方にも一言声をかけているのを見て、患者さんのためだけの看護師ではないんだなと感じました。処置をしている時、ご家族の方の表情は不安そうでしたが、終わった後の一言で凄く安心そうな表情をされていました。そんな場面を見て自分は、どんな看護師になりたいかを考えました。適切な処置や的確な看護を行うことは当たり前前のことで、その次に何が出来るのかを考えて実行することが求められているのかなと思いました。今日、体験して看護師になりたいという気持ちが益々大きくなりました。

学校名：大阪府立芥川高等学校 氏名：H・H
体験病棟：5病棟

学校名：追手門学院高等学校 氏名：K・T
体験病棟：5病棟

日本赤十字社第4ブロック 合同災害救護訓練に参加して



消化器外科医師 高木 秀和

5月26日、奈良県で行われた日赤第4ブロック合同災害救護訓練に参加しました。奈良県中部で震度6強の地震が発生したという想定で、近畿2府4県から参集した救護班が、救護所の設営からトリアージ、救護所内での治療まで実践しながらの大規模な訓練でした。私自身、このような大きな訓練に参加するのは初めてで、災害救護の知識のある程度頭に入れて参加したつもりでしたが、救護所内へ次々に運ばれてくる傷病者に対して迅速な指示が思うように出せず、災害医療現場での自身の経験不足を痛感しました。昨今、自然災害のニュースを目にする機会も増え、災害現場での医療救護活動の重要性は高まっていると思います。今回の訓練を良い経験に、今後も精進していきたいと思えます。

リハビリテーション課 岸田 尚子

5月26日(土)、奈良県浄化センターで行われた日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練に参加しました。今回の訓練は、奈良県中央構造線断層帯が震源のM8.0、震度6強の地震により大和郡山市内で甚大な被害が起きたという想定で行われました。

訓練は救護所を設置する所から始まり、被災者のトリアージから治療や搬送手配など行いました。私は主事として参加していたので、トリアージで選別された方からの情報収集や人数把握などが主な役目でしたが、次から次へ来られる被災者役の方に対応する事が遅れる場面もあり、救護現場で素早く的確な作業を行う難しさを痛感しました。

今回の訓練で反省点や改善点などあり、とても良い経験となりました。



救急法講習会に参加して

臨床検査技師 村上 浩子

以前より関心のある救急法講習会が今年7月の連休にあるとのこと、自主的に参加致しました。

心肺蘇生法をするのは学生時代に車の免許を取りに行った時以来の事でしたので、要領がよくわからず、初日から少々不安になりましたが、インストラクターの方々が丁寧に教えて下さり、また、受講者の方々が非常に熱心で、私も含め皆、昼休憩も早々と切り上げまじめに取り組んでいました。

包帯法では、今まで三角巾の使い方を教わる機会がありませんでしたので、新鮮な気持ちで勉強することが出来ました。きれいに包帯を巻いている看護師さんを見て、さすがはプロだなと関心致しました。今後も災害が起こることが十分に予想されます。是非、一人でも多くの方に受講していただきたいです。



おすすめレシピ

メニュー

- ・夏野菜の豆乳カレー
- ・胡瓜の生姜和え
- ・果物(パイナップル)
- ・ご飯(130g)

材料(1人分)

<夏野菜の豆乳カレー>

鶏むね皮なし	60g	にんにく	5g
サラダ油	2g	玉葱	50g
茄子	50g	人参	20g
かぼちゃ	30g	トマト	50g
コショウ	適量	水	50g
豆乳	90g	カレー粉	適量
パイヨン	2g	ローリエ	適量
ケチャップ	4g	ワタソース	10g
片栗粉	2g	オクラ	20g(2本)

<胡瓜の生姜和え>

きゅうり	70g
生姜	5g
胡麻	1g
大葉	1g
ぼん酢	5g
胡麻油	1g

<果物>

パイナップル	75g
--------	-----

カレーのおはなし

<カレーは食べてはいけない?>

カレーうどんやハヤシルウには炭水化物と脂質が多く含まれているので、血糖値を上昇させる原因になります。では、カレーうどんやハヤシルウは食品交換表ではどのグループに分類されるのでしょうか?カレーうどんなどは「調味料」のグループに分類されます。カレーを作る時に使用するカレーうどんは1人前で約18g(カレーうどん1単位は約15g、1人前で1.2単位に相当)。

調味料の使用量の目安は1日0.5単位ですから、1人前のカレーを食べると、調味料の摂取量を大幅にオーバーしてしまいます。

一工夫して、血糖値を上げにくい野菜たっぷりのカレーで健康なカラダをつくりましょう。

エネルギー	炭水化物	たんぱく質	脂質	塩分	食物繊維
552kcal	92.4g	23.8g	9.6g	2.6g	10.3g

『市民公開講座』が 開催されました

地域医療連携課長 濱田 健司



去る、7月7日(土)、高槻現代劇場で『市民公開講座』を開催いたしました。

毎年、7月に市民の方々を対象に「がん診療」をテーマに公開講座を開催しています。

今回のテーマは、「進歩する分子標的治療」と題して、「肺がんの治療」は呼吸器科の

篠智幸政先生、「乳がんの治療」は乳癌外科の小林稔弘先生、「大腸がんの治療」は消化器外科の恒松一郎先生、「血液腫瘍の治療」は血液腫瘍内科の安齋尚之先生、「放射線の治療」は放射線治療室担当看護師の角田恵美子看護師、「緩和ケア」は緩和ケア認定看護師の勇祐子看護師によって講演されました。

約100名の参加があり、写真やスライド、動画などで説明し、時には、笑いがあつたり会場が一体になったような雰囲気になりました。二部の総合討論会では、参加された方からいろいろな質問があり、パネリストの先生方が丁寧に答えられています。

来年も開催する予定です。皆様、是非ご参加いただけますようお願いいたします。

落語会の開催

社会課長 萩原 直久

8月30日、やすらぎホールにて林家染丸一門の「林家竹丸」さんによる、落語会を開催しました。同氏は、「天神繁盛亭」などを拠点に、関西一円の落語会に数多く出演し、講演、執筆活動においても落語の魅力を発信しているほか、京都造形芸術大学で、「伝統芸能」の講義を担当するなど幅広く活動しております。当日は落語二題のほか、南京玉すだれを披露し、患者さまたちの笑を誘っておいりました。



すずらんのお見舞い

社会課長 萩原 直久

6月8日、今年も入院患者の方々に励まそうと、ANAグループの客室乗務員らが当院を訪れ、9病棟の入院患者さま一人一人に、手作りのすずらんの押し花を手渡されました。

すずらんには「幸せ」の花ことばがあり、受け取った患者さまたちは、心のこもった贈り物に、喜びの声を上げておられました。



平成24年度 第二回
全国赤十字救護班

研修会に参加して

薬剤師 中西輝

私は、7月14日～7月16日の3日間、神戸で行われた全国赤十字救護班研修会に参加しました。全国赤十字救護班研修会とは、従来の救護班研修に日本DMATの教育手法を加えることで、災害現場で日本DMATとの共働を図りやすくし、より円滑に災害医療を展開するための研修会です。日本DMATとは、あまり見慣れない単語かと思いますが、「災害急性期に活動できる機動性をもったトレーニングを受けた医療チーム」のことで、概ね災害発生後48時間以内の超急性期に活動する救命治療を目的とする医療チームのことです。

救護班は、医師、看護師、主事(事務)で1チームが構成されます。私は、主事として研修会に参加しました。研修会では、様々な研修が行われましたが、その研修を通じて最も印象に残ったのは、災害現場では「情報」というものがいかに大切かということでした。現場ではいくつものチームが集まっております、それぞれが勝手に判断して動いては効率的な救護を行うことができません。そこで、災対本部と連携をし、主事が情報を上手く取り扱うことで、効率よく救護活動を展開することが出来るようになるのです。

3・11の東日本大震災以降、災害救護活動に対する関心が高まっている今、こういった活動を行い、非常時に対応できる体制を作る事はとても大切であることを改めて感じた3日間でした。

エコロジーガーデン

当院では、院内緑化により患者様にとって快適な空間を提供するため、外来待合などに「エコロジーガーデン」を設置しております。

「エコロジーガーデン」は、空気浄化能力の高い植物と特殊土壌を組み合わせることで、室内の空気の質を高めることができるもので、この導入により、患者様により一層の“癒しと安らぎ”の空間を提供していきたいと考えております。

なお、この「エコロジーガーデン」は、
下記企業等のご協力のもとに維持運営を行っています。



エコロジーガーデン協賛企業 (順不同)

都市クリエイト(株)

(株)塩梅なにわ

(株)マルヨシ

東ア建設(株)

茨木サンシャイン(株)

大阪促成青果(株)

たかつき京都ホテル

住友電設(株)

(株)いずみ商事

ローソン高槻赤十字病院店

コーベビー(株)神戸支店

(株)白洋舎

(株)ビー・エム・エル

くだもの ヤマ作

モス・ワールド(株)

高槻交通(株)

(株)播芳

東西化学産業(株)大阪営業所

興和防災(株)

京阪米穀(株)

(株)コクミン

ワタキューセイモア(株)

(株)幸蔵

アサヒカルピスビバレッジ(株)

(株)ニック

(株)小林木村家

(株)国際興業大阪

(株)サクセスアカデミー

大阪神戸冷食(株)

春日食品(株)



日本赤十字社 高槻赤十字病院

〒569-1096 大阪府高槻市阿武野 1-1-1
TEL 072-696-0571 (代表)
URL <http://www.takatsuki.jrc.or.jp>
mail trc@takatsuki.jrc.or.jp
発行責任者 事務部長 神谷 尚孝

高槻赤十字病院の理念

私たちは人道・博愛の赤十字精神に基づき、高度で安全な医療を提供し、地域の人々が誇りにする病院となるよう努めます。

高槻赤十字病院の方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、患者さま中心の医療をおこないます。
2. 一人ひとりの患者さまを全職員が支援する、チーム医療をおこないます。
3. 患者さまのホームドクターと緊密に連携し、地域で完結する医療をおこないます。
4. 常に向上心と研究心をもち、最高最善の医療が実現できるように努めます。
5. 健全な病院経営と地域に貢献できる医療従事者の育成に努めます。
6. 災害救護活動をはじめとする赤十字に課せられた使命を果たします。

モバイルサイト

携帯電話でQRコードを
読み取ってアクセスしてください

病院情報は
こちらから！

